

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2011 年 7 月 7 日(07.07.2011)



(10) 国際公開番号
WO 2011/081004 A1

- (51) 国際特許分類:
A45D 44/22 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2010/072170
- (22) 国際出願日: 2010 年 12 月 9 日(09.12.2010)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2009-297572 2009 年 12 月 28 日(28.12.2009) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1048010 東京都中央区銀座 7 丁目 5 番 5 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 富永 直樹 (TOMINAGA, Naoki) [JP/JP]; 〒2248558 神奈川県横浜市都筑区早渕 2 丁目 2 - 1 株式会社資生堂 リサーチセンター (新横浜) 内 Kanagawa (JP). 大坪 充恵 (OOTSUBO, Mitsue) [JP/JP]; 〒2248558 神奈川県横浜市都筑区早渕 2 丁目 2 - 1 株式会社資生堂 リサーチセンター (新横浜) 内 Kanagawa (JP). 新藤 圭介 (SHIN-

TO, Keisuke) [JP/JP]; 〒2248558 神奈川県横浜市都筑区早渕 2 丁目 2 - 1 株式会社資生堂 リサーチセンター (新横浜) 内 Kanagawa (JP).

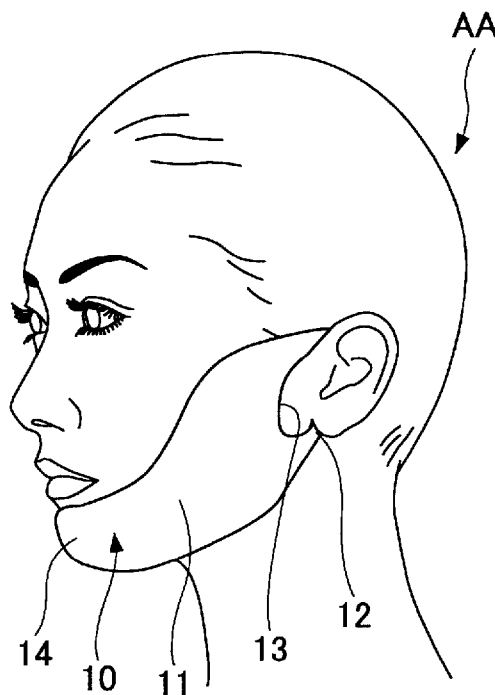
- (74) 代理人: 伊東 忠彦 (ITO H Tadahiko); 〒1506032 東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 2 0 番 3 号 恵比寿ガーデンプレイスタワー 3 2 階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, RO, RS, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT,

[続葉有]

(54) Title: COSMETIC METHOD AND KIT FOR COSMETIC USE

(54) 発明の名称: 美容方法及び美容用キット

[図4]



(57) Abstract: A cosmetic method characterized by comprising: a step for applying a creamy cosmetic to at least either the chin or cheeks; a step for massaging at least either the chin or cheeks to which said creamy cosmetic has been applied; and a step for, after the massaging, lifting up the chin and cheeks by using a mask provided with ear attachment members.

(57) 要約: 顎及び頬の少なくとも一方にクリーム状美容料を塗布するステップと、該クリーム状美容料が塗布された顎及び頬の少なくとも一方に対してマッサージを行うステップと、前記マッサージの施術後、耳掛け部を有するマスクを用いて顎及び頬をリフトアップさせるステップとを有することを特徴とする美容方法。



NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI
(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR,
NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 国際調査報告 (条約第 21 条(3))
- 補正された請求の範囲 (条約第 19 条(1))

明 細 書

発明の名称：美容方法及び美容用キット

技術分野

[0001] 本発明は美容方法及び美容用キットに係り、特にフェースラインのリフトアップに好適な美容方法及びこれに用いる美容用キットに関する。

背景技術

[0002] 一般に、顔に施術する美容方法が種々提案されているが、その一つとしてフェースラインのリフトアップを図る美容方法が知られている。人の顔の皮膚及び筋肉組織は加齢に伴い張りや弾力が低下するため、これが顔の弛みや皺を発生させる原因となっている。

[0003] 特に、顎や頬の近傍においては、この弛みや皺が発生し易い傾向にある。この顎や頬の近傍におけるフェースラインをリフトアップする方法として、美容マスクを用いる方法が提案されている（特許文献1，2参照）。

[0004] 従来の美容マスクを用いたフェースラインをリフトアップする方法では、化粧液が塗布されたマスクを顎に当てると共に、マスクの両側部に設けられた耳掛けをマスクを引き上げながら耳に掛けることにより顎から頬を引き上げ、これによりフェースラインをリフトアップを図ることが行われていた。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献1：実用新案登録第3120502号

特許文献2：特開2005-013486号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] 上記の従来のマスクを用いた美容方法では、化粧液を顔に塗布した後にマスクを顔に装着するか、或いは化粧液が塗布されたマスクを顔に装着して顎及び頬を引き上げることが行われていた。しかしながら、この方法では顔

に対するリフトアップ効果が十分でなく、また使用感も悪いという問題点があった。

[0007] 本発明は上記の点に鑑みてなされたものであり、効率よくフェースラインのリフトアップを図れる美容方法及び美容用キットを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0008] 上記の課題は、第1の観点からは、
顎及び頬の少なくとも一方にクリーム状美容料を塗布するステップと、
該クリーム状美容料が塗布された顎及び頬の少なくとも一方に対してマッサージを行うステップと、
前記マッサージの施術後、耳掛け部を有するマスクを用いて顎及び頬をリフトアップさせるステップとを有することを特徴とする美容方法により解決することができる。

[0009] 上記の発明において、前記クリーム状美容料は、20%以上30%以下の油分を含むことが望ましい。

[0010] また上記発明において、前記マスクは伸縮性を有する不織布を基材とすることが望ましい。

[0011] また上記発明において、前記マスクはポリアクリル酸系の水溶性ジェルが展膏されてなることが望ましい。

[0012] また上記の課題は、第2の観点からは、
伸縮性を有する不織布にポリアクリル酸系の水溶性ジェルが展膏されてなるマスクを含むことを特徴とする美容用キットにより解決することができる。

[0013] また上記発明において、20%以上30%以下の油分を含むクリーム状美容料を更に含むことが望ましい。

[0014] また上記発明において、前記不織布は、長手方向の長さが22.0cm以上24.0cm以下であり、短手方向の長さが8.0cm以上11.0cm以下であることが望ましい。

- [0015] また上記発明において、前記不織部の長手方向の両側部に、長手方向の長さが2.5cm以上4.0cm以下であり、短手方向の長さが1.0cm以上2.0cm以下の耳掛け孔を形成してなることが望ましい。

発明の効果

- [0016] 開示の美容方法及び美容用キットを用いることにより、フェースラインを有効にリフトアップすることができる。

図面の簡単な説明

- [0017] [図1]図1は、本発明の一実施形態である美容方法を示す工程図である。
- [図2]図2は本発明の一実施形態である美容方法を示す図であり、化粧料を塗布するステップを説明するための図である。
- [図3]図3は本発明の一実施形態である美容方法を示す図であり、マッサージを行うステップを説明するための図である。
- [図4]図4は本発明の一実施形態である美容方法を示す図であり、マスクを装着するステップを説明するための図である。
- [図5]図5は、本発明の一実施形態である美容方法に用いるマスクの平面図である。
- [図6]図6は、本発明の一実施形態である美容用キットを説明するための図である。
- [図7]図7は、本発明の一実施形態である美容方法に用いるクリーム状美容料の組成の一例を示す図である。
- [図8]図8、本発明の一実施形態である美容方法に用いるマスクに展膏する美容料の組成の一例を示す図である。
- [図9]図9は、本発明の一実施形態である美容方法の施術後に実施した官能試験の結果を示す図である。
- [図10]図10は、比較例1としてマスクのみを装着後に実施した官能試験の結果を示す図である。
- [図11]図11は、比較例2として化粧料の塗布とマッサージの施術を実施した後に実施した官能試験の結果を示す図である。

発明を実施するための形態

[0018] 次に、本発明の実施の形態について図面と共に説明する。

[0019] 図1は、本発明の一実施形態である美容方法を示す工程図である。本実施形態に係る美容方法は、被施術者A A（美容方法が施される者）の顎や頬の近傍における弛みや皺の発生を抑制或いは是正するために実施されるものであり、顎や頬の近傍におけるフェースラインをリフトアップさせる処理を含む美容方法である。

[0020] 本実施形態に係る美容方法では、図2に示すように、先ず被施術者A Aの顎及び頬の少なくとも一方に対して化粧料の塗布を行う（ステップ10）。この時に使用する化粧料は、保湿剤が10%以上20%以下で、油分が20%以上で30%以下のクリーム状化粧料を用いる。ここで、保湿剤を10%以上としたのは、肌に適度なうるおいを与え柔軟にするためであり、20%を超えるとマッサージを施術する際にべたつき感が生じてしまい使用感が低下するからである。

[0021] また、油分を20%以上としたのは、油分が20%未満であると後述するマッサージを施術するときに指に印加される摩擦が大きくなり、良好なマッサージを実施することができなくなるからである。また、油分を30%以下としたのは、油分が30%を超えるとマッサージを施術する際にべたつき感が生じてしまい使用感が低下するからである。

[0022] 図7は、本実施形態で使用するクリーム状化粧料の組成を示している。同図に示すように、本実施形態で使用するクリーム状化粧料は保湿剤の含有量が13%となっており、また油分の含有量が27.5%となっている。よって、このクリーム状化粧料を用いることにより、マッサージの施術時に良好なマッサージを実施することができる。尚、クリーム状化粧料の組成は、図7に示すものに限定されるものではなく、上記した油分の条件の範囲内で適宜変更することが可能である。

[0023] 上記の化粧料の塗布処理が終了すると、続いて被施術者A Aの顎及び頬の少なくとも一方に対してマッサージを施術する（ステップ20）。本実施

形態に係る美容方法は、顎や頬の近傍におけるフェースラインをリフトアップさせることを目的としている。このため被施術者A Aに対して実施するマッサージは、図3に矢印で示すように、顎から耳の方向に向けて下から上へと実施する。この際、両手を交互に交差させながらマッサージを行うことにより、効率よくマッサージを行うことができる。

[0024] マッサージを実施することにより、フェースラインをリフトアップさせる一定機の効果を得ることができる。また、マッサージを施術することにより、顎及び頬の少なくとも一方における血行が良好となり、肌の活性化を図ることができる。尚、マッサージの方向及び方法は、特に限定されるものではなく、フェースラインをリフトアップさせる効果があるマッサージ方法であれば、他のマッサージ方法を適用することも可能である。

[0025] 上記のマッサージの施術が終了すると、続いて被施術者A Aに対してマスク10が装着される。図4はマスク10を装着した被施術者A Aを示しており、また図5はマスク10を拡大して示している。

[0026] 本実施形態に係るマスク10は、マスク本体11に耳掛け部12、耳掛け穴13、及び顎掛け部14を形成した構成とされている。マスク本体11は、伸縮性を有する不織布を基材としている。よって、マスク10を装着することにより、顎及び頬は伸縮性を有するマスクにより上方に持ち上げられ、これによりフェースラインをリフトアップすることができる。

[0027] また、マスク本体11の被施術者A Aの肌と接する領域には、ポリアクリル酸系の水溶性ジェル（ヒドロゲル）が展膏されている。この水溶性ジェルに添加する添加剤の具体的な組成を図8に示す。水溶性ジェルを図8に示す組成とすることにより、塗布した化粧料の保湿成分、油分の肌への浸透を図ることができる。

[0028] 一方、マスク10によりフェースラインを確実にリフトアップするには、マスク10を被施術者A Aの顎及び頬に密着させ、上方向（具体的には耳に向かう方向）に向けて確実に顎及び頬をリフトアップする必要がある。このためには、マスク10の形状を適正化することが重要である。そこで本実

施形態に係るマスク 10 は、各所の寸法を次のように設定した。

[0029] 図 5 を用い、マスク 10 の各所の寸法について説明する。尚、以下説明するマスク 10 の各所の寸法は、マスク 10 を装着する前の状態における寸法である。また、マスク 10 の基材となる不織布としては、一般に市販されているシップ剤に適用されている不織布と同等の特性を有するもの、具体的には同等の伸縮性を有するものを基準とし、これについての寸法を特定した。

[0030] 先ず、不織布よりなるマスク 10 の長手方向（図中矢印 X で示す方向）の長さ（ L_1 ）は、 $22.0\text{cm} \leq L_1 \leq 24.0\text{cm}$ とした。これは、 $L_1 < 22.0\text{cm}$ とすると、マスク 10 と顎及び頬との接触面積が小さくなると共にマスク装着時に耳に強い引張り力が作用し装着感が悪化するからである。また $L_1 > 24.0\text{cm}$ とすると、顎及び頬に対するリフトアップ力が小さくなり、フェースラインをリフトアップする効果が低減するからである。

[0031] また、マスク 10 の短手方向（図中矢印 Y で示す方向）の長さ（ W_1 ）は、 $8.0\text{cm} \leq W_1 \leq 11.0\text{cm}$ とした。これは、 $W_1 < 8.0\text{cm}$ とすると、マスク 10 を装着した際に顎及び頬に対してマスクが装着される面積が狭くなり、リフトアップ効果が低減すると共に装着感が不良となるからである。また $W_1 > 11.0\text{cm}$ とすると、マスクを装着した際に顎掛け部 14 が顎及び頬から外にはみ出してしまい、装着感が不良となるからである。

[0032] また、マスク本体 11 の長手方向の両端部には、耳掛け穴 13 が形成されている。この耳掛け穴 13 の形状は、被施術者 A A の耳への装着性を考慮して、長手方向の長さ（ L_2 ）を $2.5\text{cm} \leq L_2 \leq 4.0\text{cm}$ に設定すると共に、短手方向の長さ（ W_2 ）を $1.0\text{cm} \leq W_2 \leq 2.0\text{cm}$ に設定した。

[0033] 更に、この一对の耳掛け穴 13 の離間距離（各耳掛け穴 13 の中央位置間の距離）である L_3 を $15.0\text{cm} \leq L_3 \leq 19.0\text{cm}$ に設定した。これは、 $L_3 < 15.0\text{cm}$ とするとマスク 10 を装着した際に耳に強い引張り力が作用し装着感が悪化するからである。また、 $L_3 > 19.0\text{cm}$ とすると、装着時に十分なリフトアップ力が得られなくなるからである。

[0034] また、マスク 10 の形状としては、マスク本体 11 の図中上方が直線状な端面 11 a とされているのに対し、これと反対側の端面 11 b は凹部が形成された揭示用とされている。これは、マスク本体 11 の端面 11 a を直線状とすることにより、マスク 10 を装着した際にこの上端面 11 a は顎及び頬を直線状に押し上げるため、強いリフトアップ力を発生させることができる。また、マスク本体 11 の下部（装着した際に前側となる部位）に凹部を形成するよう端面 11 b を形成したことにより、マスク 10 の装着時に顎から前方にマスク本体 11 が突出することがなくなり、使用性を高めることができる。

[0035] 上記したマスク 10 は、図 6 に示すように、密封容器であるマスク収納用包装体 17 に収納された状態で販売される。この際、前記した美容方法で実施する化粧料の塗布ステップ（図 1 のステップ 10）で使用するクリーム状化粧料を装填したクリーム状美容液チューブ 16 を用意し、このマスク収納用包装体 17 とクリーム状美容液チューブ 16 を透明容器 18 等に入れて美容用キットとして販売する形態を取ることもできる。これにより、被施術者 A A はこの美容用キット 15 を購入することにより、図 1 ～図 4 を用いて説明した本実施形態に係る美容方法を容易に実施することが可能となる。

[0036] 次に、本実施形態に係る美容方法を施術したとき、被施術者がどのように感じたかを調べる官能評価を実施した。その結果を比較例と共に図 9 ～図 11 に示す。

[0037] この図 9 ～図 11 に示す官能評価は、10 人のパネラーに対して後述する各種美容方法を施術し、その結果をアンケートとして回答してもらい、これを纏めたものである。また、官能評価の項目は、「肌へ密着する」、「清涼感がある」、「リフトアップ感がある」、「使用後の肌がしっとりする」、「使用後の肌にハリを感じる」、「使用後の肌にべたつきを感じない」、「フェースラインが引き締まりそう」、「肌にハリが出そう」、「たるみにくい肌になりそう」の 9 項目とした。

[0038] 更に、評価の分類としては、普通を「0」評価とし、「ややする」、「

ややある」、「やや感じる」、「ややそう思う」を「1」評価とし、「する」、「ある」、「感じる」、「そう思う」を「2」評価とした。また、「あまりしない」、「あまりない」、「あまり感じない」、「あまり思わない」を「-1」評価とし、「しない」、「ない」、「感じない」、「そう思わない」を「-2」評価とした。更に、各図においてマスク10の製品評価を「●」で示し、各パネラーが使用した際の嗜好評価（好きか、嫌いか）を「□」で示した。

[0039] 図9は、本実施形態に係る美容方法（化粧料の塗布＋マッサージ＋マスク装着）を施術したときの官能評価の結果（以下、実施例という）を示している。

[0040] これに対し、図10及び図11は比較例となる官能評価の結果を示している。具体的には、図10に示すのはマスク装着のみを行い、化粧料の塗布及びマッサージを施術しない化粧方法である場合の官能評価の結果（以下、比較例1という）を示している。更に、図11に示すのは、化粧料の塗布及びマスクの装着のみを行い、マッサージを施術しない化粧方法である場合の官能評価の結果（以下、比較例2という）を示している。

[0041] 先ず、図9に示す実施例と図10に示す比較例1とを比較すると、実施例1は「使用後の肌にべたつきを感じない」の項目を除き、他の項目においては比較例1よりも良好な結果を得ている。ここで、「使用後の肌にべたつきを感じない」の項目において官能評価が低下しているのは、比較例1ではクリーム状化粧料を塗布していないため、クリーム状化粧料を塗布する実施例1に比べて「べたつき感」が増大しているからであると考えられる。

[0042] しかしながら他の官能評価については、他の全てにおいて実施例は比較例1に比べて良好な結果となっている。特に、「フェースラインが引き締まりそう」、「肌にハリが出そう」、「たるみにくい肌になりそう」の各項目においては、著しい効果の向上が見られた。

[0043] 一方、図9に示す実施例と図11に示す比較例2とを比較すると、実施例1は全ての項目においては比較例2よりも良好な結果を得ている。特に、

「肌へ密着する」、「清涼感がある」、「使用後の肌にハリを感じる」、「使用後の肌にべたつきを感じない」、「フェースラインが引き締まりそう」、「肌にハリが出そう」、「たるみにくい肌になりそう」の各項目において、著しい効果の向上が見られた。

[0044] 更に、「たるみにくい肌になりそう」の項目では、比較例 1 より比較例 2の方が良好な効果を得ており、実施例では比較例 2 よりも更に良好な効果を得ている。これは、マッサージ効果（肌の柔軟効果）とマスクのリフトアップ効果の相乗効果によるものと考えられる。

[0045] 以上説明した図 9～図 11 に示す官能評価の実験結果から、化粧料の塗布、マッサージの施術、及びマスクの装着を行う本実施形態に係る美容方法を実施することにより、使用感覚が良好で、かつフェースラインのリフトアップを有効に行うことができることが立証された。

[0046] 以上、本発明の好ましい実施形態について詳述したが、本発明は上記した特定の実施形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明の要旨の範囲内において、種々の変形・変更が可能なものである。

[0047] 本国際特許出願は、2009 年 12 月 28 日に提出した日本国特許出願 2009-297572 号に基づく優先権を主張するものであり、同号の全内容をここに本国際特許出願に援用する。

符号の説明

- [0048] 10 マスク
- 11 マスク本体
 - 12 耳掛け部
 - 13 耳掛け穴
 - 14 顎掛け部
 - 15 美容用キット
 - 16 クリーム状美容液チューブ
 - 17 マスク収納用包装体
 - 18 透明容器

A A 被施術者

請求の範囲

- [請求項1] 顎及び頬の少なくとも一方にクリーム状美容料を塗布するステップと、
該クリーム状美容料が塗布された顎及び頬の少なくとも一方に対してマッサージを行うステップと、
前記マッサージの施術後、耳掛け部を有するマスクを用いて顎及び頬をリフトアップさせるステップとを有することを特徴とする美容方法。
- [請求項2] 前記クリーム状美容料は、20%以上30%以下の油分を含むこと特徴とする請求項1記載の美容方法。
- [請求項3] 前記マスクは、伸縮性を有する不織布を基材とすることを特徴とする請求項1記載の美容方法。
- [請求項4] 前記マスクは、ポリアクリル酸系の水溶性ジェルが展膏されてなることを特徴とする請求項1に記載の美容方法。
- [請求項5] 伸縮性を有する不織布にポリアクリル酸系の水溶性ジェルが展膏されてなるマスクを含むことを特徴とする美容用キット。
- [請求項6] 20%以上30%以下の油分を含むクリーム状美容料を更に含むことを特徴とする請求項5記載の美容用キット。
- [請求項7] 前記不織布は、長手方向の長さが22.0cm以上24.0cm以下であり、短手方向の長さが8.0cm以上10.0cm以下であることを特徴とする請求項5記載の美容用キット。
- [請求項8] 前記不織部の長手方向の両側部に、長手方向の長さが2.5cm以上4.0cm以下であり、短手方向の長さが1.0cm以上2.0cm以下の耳掛け孔を形成してなることを特徴とする請求項5に記載の美容用キット。

補正された請求の範囲
[2011年4月11日(11.04.2011)国際事務局受理]

【請求項 1】 (補正後) 顎及び頬の少なくとも一方にクリーム状美容料を塗布するステップと、

該クリーム状美容料が塗布された顎及び頬の少なくとも一方に対してマッサージを行うステップと、

前記マッサージの施術後、伸縮性を有する不織布にポリアクリル酸系の水溶性ジェルが展膏されてなるマスクであり、該マスクの短手方向の長さ W_1 が $8.0\text{cm} \leq W_1 \leq 11.0\text{cm}$ を充足し、さらに長手方向の長さ L_2 が $2.5\text{cm} \leq L_2 \leq 4.0\text{cm}$ で短手方向の長さ W_2 が $1.0\text{cm} \leq W_2 \leq 2.0\text{cm}$ を充足する耳掛け穴を該マスクの長手方向の両端に該耳掛け穴の離間距離 L_3 が $15.0\text{cm} \leq L_3 \leq 19.0\text{cm}$ を充足するように設けたマスクを用いて顎及び頬をリフトアップさせるステップとを有することを特徴とする美容方法。

【請求項 2】 前記クリーム状美容料は、20%以上 30%以下の油分を含むこと特徴とする請求項 1 記載の美容方法。

【請求項 3】 (削除)

【請求項 4】 (削除)

【請求項 5】 (補正後) 伸縮性を有する不織布にポリアクリル酸系の水溶性ジェルが展膏されてなるマスクであり、該マスクの短手方向の長さ W_1 が $8.0\text{cm} \leq W_1 \leq 11.0\text{cm}$ を充足し、さらに長手方向の長さ L_2 が $2.5\text{cm} \leq L_2 \leq 4.0\text{cm}$ で短手方向の長さ W_2 が $1.0\text{cm} \leq W_2 \leq 2.0\text{cm}$ を充足する耳掛け穴を該マスクの長手方向の両端に該耳掛け穴の離間距離 L_3 が $15.0\text{cm} \leq L_3 \leq 19.0\text{cm}$ を充足するように設けたマスクを含むことを特徴とする美容用キット。

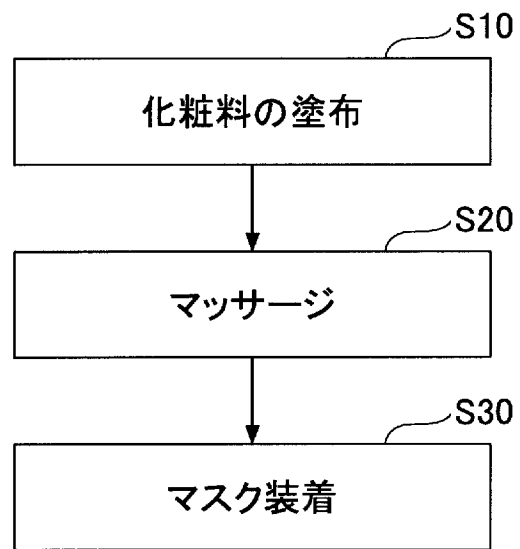
【請求項 6】 20%以上 30%以下の油分を含むクリーム状美容料を更に含むことを特徴とする請求項 5 記載の美容用キット。

【請求項 7】 前記不織布は、長手方向の長さが 22.0cm 以上 24.0cm 以下であり、短手方向の長さが 8.0cm 以上 10.0cm 以下であることを特徴とする請

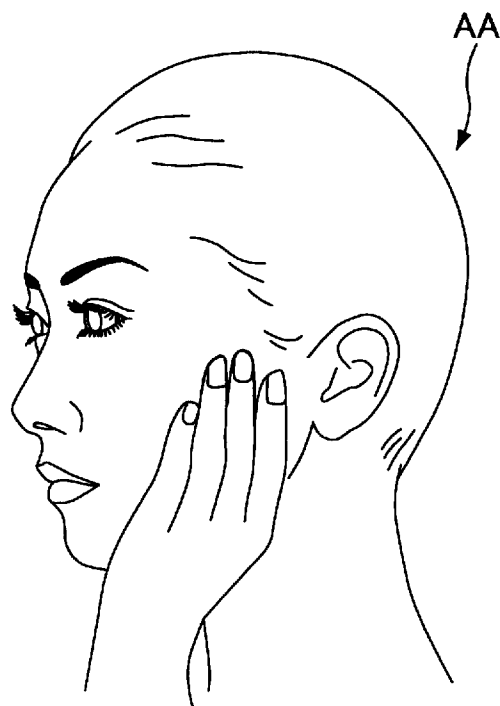
求項 5 記載の美容用キット。

[請求項 8] (削除)

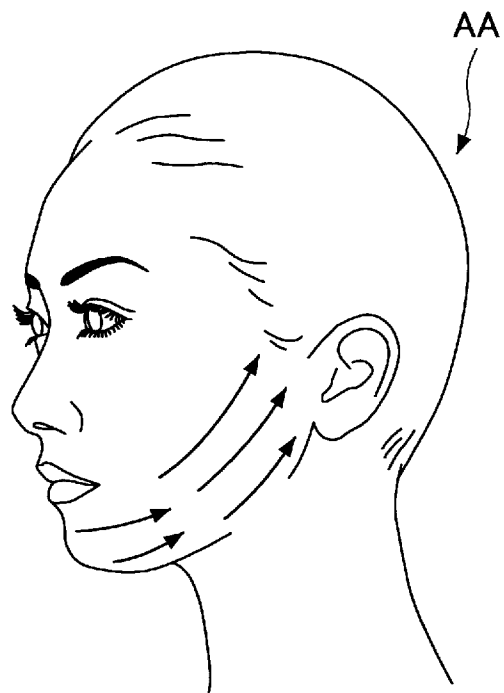
[図1]



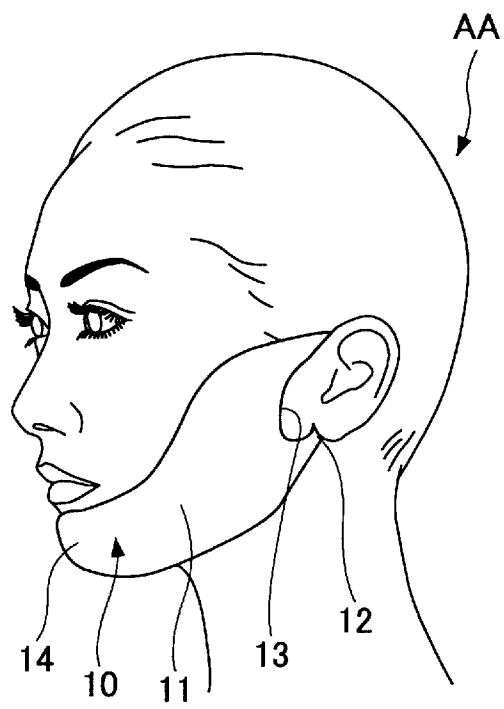
[図2]



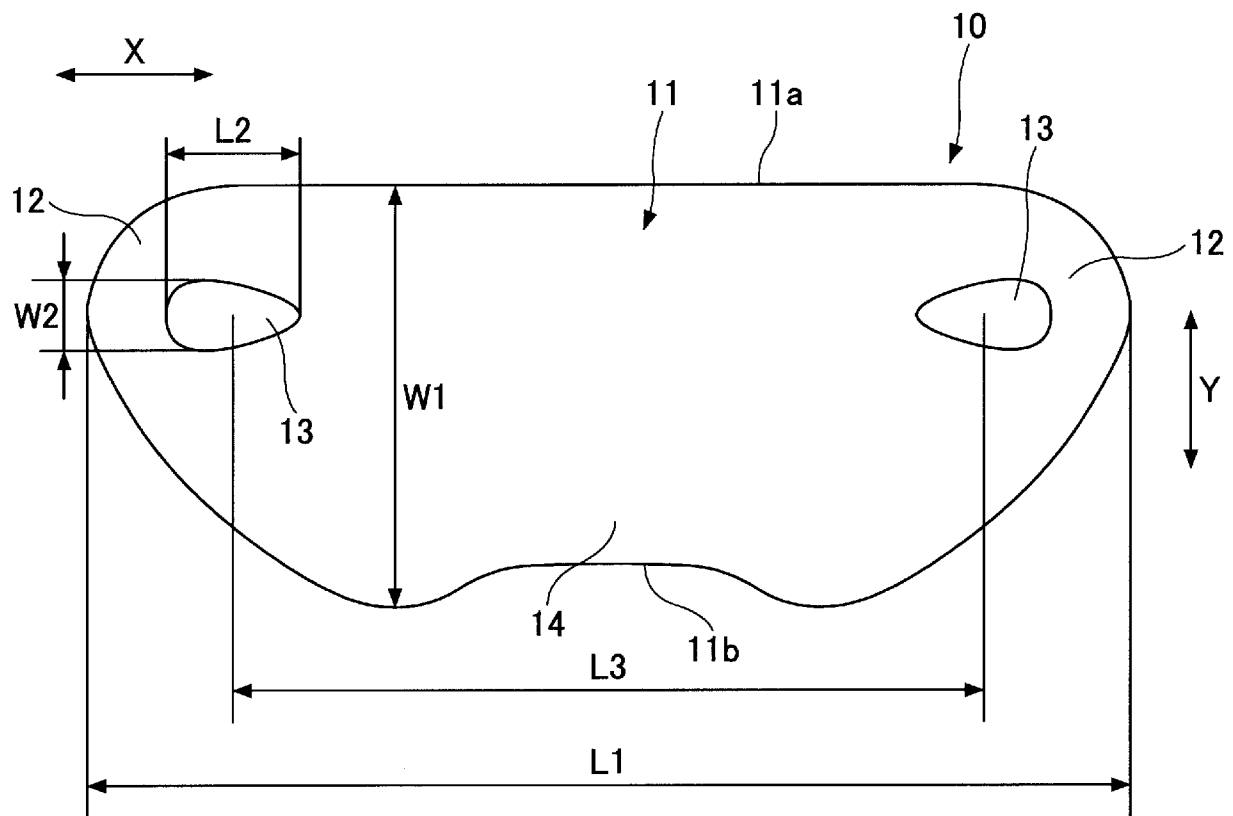
[図3]



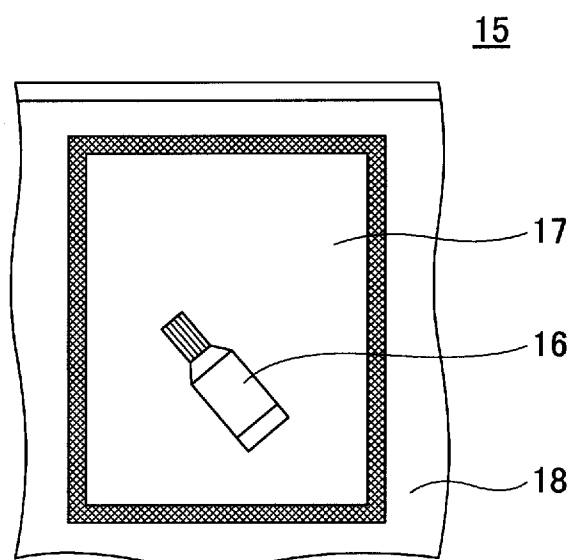
[図4]



[図5]



[図6]



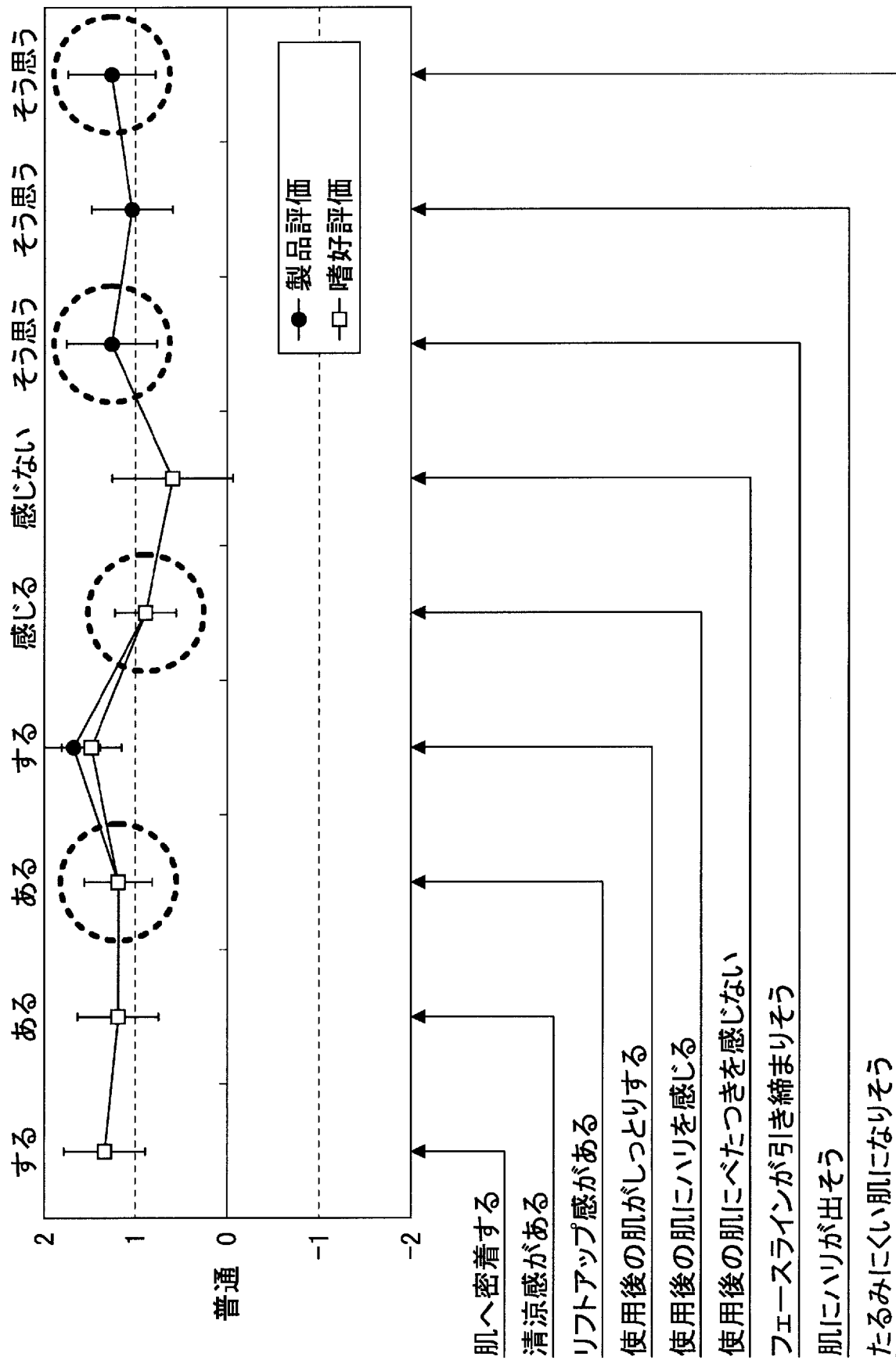
[図7]

[美容料]		残余
イオン交換水		
グリセリン	3	保湿剤
ジプロピレングリコール	7	
1,3-ブチレングリコール	2	
PEG-400	1	
カルボマー	0.04	
PEG-20 水添ヒマシ油	0.1	活性剤
ステアリン酸グリセリル(SE)	3	
ステアリン酸	1.5	
苛性カリ	0.1	
ベヘニル アルコール	2	油分
バチル アルコール	2	
水添ポリデセン	6	
ワセリン	4.5	
ジメチコン	5	
テトラエチルヘキサン酸ペンタエリスリチル	8	
ヘキサメタリンサンソード	0.01	
防腐剤	0.4	
香料	0.1	

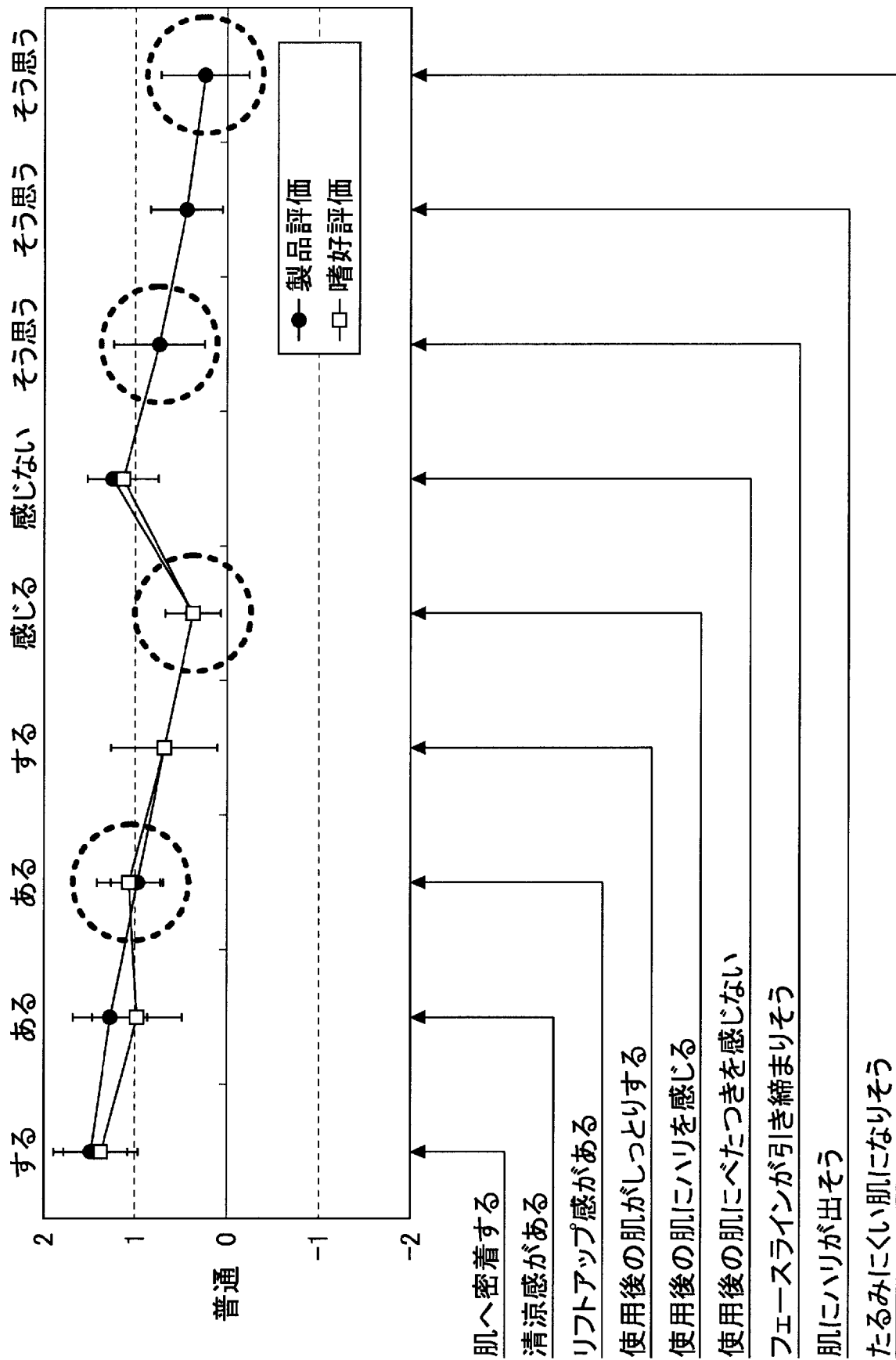
[図8]

[マスク処方]	
イオン交換水	残余
アルコール	1.5
グリセリン	30
ポリアクリル酸ナトリウム	6.0
アクリル酸Naクロスポリマー	2.0
酒石酸	0.5
水酸化アルミニウム	0.1
防腐剤	0.3
キレート剤	0.01
酸化チタン	0.1

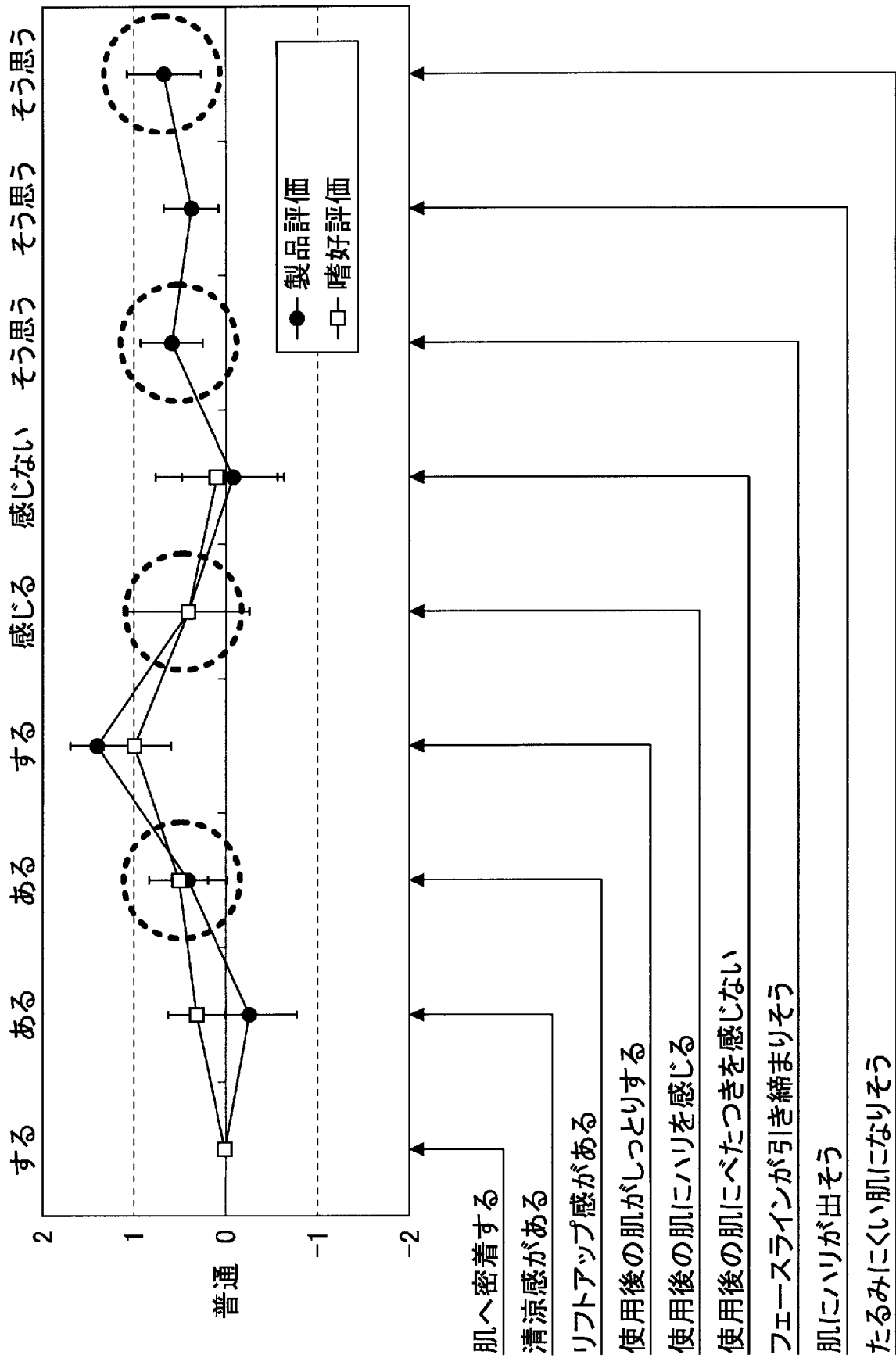
[図9]



[図10]



[図11]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2010/072170

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A45D44/22 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A45D44/22

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2011

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2011 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2011

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2009-273909 A (Shin'ichi KOYANO), 26 November 2009 (26.11.2009), claim 2; drawings & JP 2010-017545 A	1-8
Y	JP 3120502 U (Masaki MORIYA), 06 April 2006 (06.04.2006), abstract; drawings (Family: none)	1-8
Y	JP 2005-013486 A (Kyifu Yugen Kaisha), 20 January 2005 (20.01.2005), abstract; paragraph [0010]; drawings (Family: none)	1-8



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T"

later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X"

document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y"

document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&"

document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

14 February, 2011 (14.02.11)

Date of mailing of the international search report

22 February, 2011 (22.02.11)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2010/072170

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	Edited by Fragrance Journal Henshubu, 'Koshohin Seizogaku Gijutsu to Jissai', Fragrance Journal Ltd., 25 August 2001 (25.08.2001), pages 81 to 83, '2. Nyueki, Cream no Mokuteki·Kino'	1-8
Y	JP 2003-000341 A (Shiseido Co., Ltd.), 07 January 2003 (07.01.2003), paragraphs [0010] to [0011] (Family: none)	4-8
A	JP 2004-267692 A (Suzuko SATO), 30 September 2004 (30.09.2004), (Family: none)	1-8
A	JP 2006-247195 A (Yugen Kaisha CNJ JAPAN), 21 September 2006 (21.09.2006), (Family: none)	1-8
A	JP 3097413 U (Nobuo MISAWA), 29 January 2004 (29.01.2004), (Family: none)	1-8
A	JP 2009-095574 A (Kabushiki Kaisha Taiki), 07 May 2009 (07.05.2009), (Family: none)	1-8
A	JP 2007-020709 A (Hiroko FUJIMAKI), 01 February 2007 (01.02.2007), (Family: none)	1-8
A	JP 2009-112803 A (Koji NAKAMURA), 28 May 2009 (28.05.2009), & WO 2010/044285 A1	1-8
A	CA 2269197 A1 (KARAPETIAN), 15 October 2000 (15.10.2000), (Family: none)	1-8
A	CA 2324997 A1 (KARAPETIAN), 17 May 2002 (17.05.2002), (Family: none)	1-8

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A45D44/22 (2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A45D 44/22

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 1 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 1 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 1 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2009-273909 A（小屋野 信一）2009.11.26, 請求項 2, 図面 & JP 2010-017545 A	1-8
Y	JP 3120502 U（守屋 真樹）2006.04.06, 要約, 図面 （ファミリーなし）	1-8
Y	JP 2005-013486 A（キープ有限会社）2005.01.20, 要約, 段落 0010, 図面（ファミリーなし）	1-8

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 4 . 0 2 . 2 0 1 1

国際調査報告の発送日

2 2 . 0 2 . 2 0 1 1

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

永田 和彦

3 R

3 1 1 6

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 8 6

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	Fragrance Journal 編集部 編, 「化粧品製造学 技術と実際」, フレグランスジャーナル社, 2001.08.25, p. 81 - 83, 「2. 乳液, クリームの目的・機能」	1-8
Y	JP 2003-000341 A (株式会社資生堂) 2003.01.07, 段落 0010 - 0011 (ファミリーなし)	4-8
A	JP 2004-267692 A (佐藤 鈴子) 2004.09.30 (ファミリーなし)	1-8
A	JP 2006-247195 A (有限会社 CNJ JAPAN) 2006.09.21 (ファミリーなし)	1-8
A	JP 3097413 U (三澤 信生) 2004.01.29 (ファミリーなし)	1-8
A	JP 2009-095574 A (株式会社タイキ) 2009.05.07 (ファミリーなし)	1-8
A	JP 2007-020709 A (藤巻 博子) 2007.02.01 (ファミリーなし)	1-8
A	JP 2009-112803 A (中村 興司) 2009.05.28 & WO 2010/044285 A1	1-8
A	CA 2269197 A1 (KARAPETIAN) 2000.10.15 (ファミリーなし)	1-8
A	CA 2324997 A1 (KARAPETIAN) 2002.05.17 (ファミリーなし)	1-8